



2026 年 10 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社日本色材工業研究所
代 表 者 名 代表取締役社長 奥村 華代
(コード：4920 東証スタンダード市場、名証メイン市場)
問 合 せ 先 常務取締役企画・経理部長 霜田 正樹
(TEL. 03-3456-0561)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2026 年 4 月 13 日に公表しました 2027 年 2 月期（2026 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日）の第 2 四半期（中間期）及び通期の連結・個別の業績予想を、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

(1) 2027 年 2 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想数値の修正（2026 年 3 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する中間純利益	1 株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	8,918	92	33	11	5.74
今回修正予想 (B)	9,155	50	△14	△21	△10.56
増減額 (B－A)	236	△42	△47	△33	
増減率 (%)	2.7	△45.7	－	－	
(ご参考) 前年同期実績 (2026 年 2 月期第 2 四半期)	8,031	110	90	49	23.46

(2) 2027 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正（2026 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	18,361	394	275	187	90.78
今回修正予想 (B)	18,328	261	116	100	49.23
増減額 (B－A)	△33	△132	△159	△87	
増減率 (%)	△0.2	△33.6	△57.9	△46.8	
(ご参考) 前期実績 (2026 年 2 月期)	16,643	180	151	335	162.00

2. 個別業績予想の修正について

(1) 2027年2月期第2四半期(中間期)個別業績予想数値の修正(2026年3月1日～2026年8月31日)

	売 上 高	経 常 利 益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,333	109	85	41.22
今回修正予想(B)	6,129	16	11	5.61
増減額(B-A)	△204	△92	△73	
増減率(%)	△3.2	△84.7	△86.6	

(2) 2027年2月期通期個別業績予想数値の修正(2026年3月1日～2027年2月28日)

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,714	263	203	98.14
今回修正予想(B)	11,782	1	10	5.02
増減額(B-A)	△931	△262	△192	
増減率(%)	△7.3	△99.5	△95.0	
(ご参考)前期実績 (2026年2月期)	11,789	279	476	230.39

3. 業績予想の修正の理由

2027年2月期の第2四半期(中間期)におきまして、化粧品業界では、中東情勢緊迫化等の地政学的リスクが高止まり、需要は堅調に推移していると見られるものの、輸入増や一部新製品発売の先送りの動きも見られるなど、国内化粧品メーカーの出荷伸び悩みが見られます。加えて原油由来製品を始めとする各種インフレの影響が続いており、特にメイクアップの分野では、各種コスト増の価格転嫁が十分に進んでおらず、業界として収益性にマイナスの影響を及ぼしているものと推測されます。

(個別業績)

当社におきましても、第2四半期(中間期)は、中東情勢緊迫化もあって国内化粧品メーカーからの受注が期初時点の前回発表予想値を下回ったのに加え、海外化粧品メーカーからの大口受注も一部先送りとなった事もあり、売上高は前回発表予想値を下回りました。また、原油の価格高騰や供給不安を受けた原油由来製品を中心としたインフレによる費用増が大きく、各種コスト圧縮努力を継続しましたがインフレの受注価格への転嫁は十分に進まず、利益も前回発表予想値を下回る見込みです。

2027年2月期の通期個別業績予想につきましても、第3四半期は受注の低迷が続いており、第4四半期には受注回復の動きが見られるものの、第3・第4四半期の売上高は第2四半期(中間期)を下回る見込みで、通期の利益も前回発表予想を下回る見込みです。なお、2026年9月3日に稼働を開始した小諸工場は、現時点では費用計上が先行しておりますが、今後徐々に稼働を向上させていく予定です。

(連結業績)

連結業績の第2四半期(中間期)におきまして、フランス連結子会社である THEPENIER PHARMA & COSMETICS S.A.S. 及び Nippon Shikizai France S.A.S. は、医薬品及び化粧品の受注が回復してユーロ建て・円換算後共に売上高は増収、人件費や諸物価の高騰はありますが両社合計として業績は予想を上回る見込みです。連結業績では、売上高は国内の受注下振れをフランス連結子会社の増収と円安効果で打ち返して前回発表予想値を上回りますが、利益はフランス連結子会社の回復を国内の減益が上回って前回発表予想値を下回る見込みです。

2027年2月期の通期連結業績予想につきましては、フランス連結子会社が医薬品及び化粧品の受注回復の継続で通期業績が予想を上回る見込みの中で、個別業績予想の下振れが大きく、通期連結業績は、売上高は前回発表予想値並みとなる見込みですが、利益は前回発表予想値を下回る見込みです。

(注) 上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後発生する様々な要因により当該予想値と異なる結果となる可能性があります。

以上